



tomorrow



HP「ハナモモの会」



ブログ「花咲か作戦」



Instagram「ハナモモの会」



「ヒマワリ里親大作戦」その後の顛末 思いもよらない展開に…

5月10日、種を里親に託し、6月7日に花壇に定植した今年のヒマワリ。炎天下の支柱立て作業をしなくていいようにと、背が低く育つ「F1 スマイルラッシュ」という品種を試したところまでは前号でレポートしました。

その後7月初旬に次々と開花が始まりました。「普通のヒマワリより早い!」「もう少し茎が長いほうがヒマワリらしくていいな」などと皆で目を細めていたのですが。



7月3日
数本が一斉に開花
草丈は50cmほど



7月15日
満開! まだつぼみをたくさんつけている



7月19日
つぼみをつけたまま
一斉に葉がしおれてくる



7月27日
見るも哀れな姿に (涙)

「次々に花を咲かせる」という説明書きで選んだ種ですが、咲いて3日ほどで枯れ始め、10日もすると無残な姿に。

余った苗を持ち帰り育てた会員からも、同じ状況だと報告が。やむなく枯れた花を7月中に抜き、新しく昨年植えていた「はるかひまわり」の種を直まきました。

あまりに強い日照りに、高温になった土が発芽を妨げたか鳥に種を食べられたか、一部芽を出していない場所もありますが、9月過ぎに改めて花を観られると思います。



7月30日
新たにヒマワリの種まき



8月28日
密植過ぎて少し心配
まだつぼみは見えず

ハーブ斜面に新しい植物を移植

2021年環境省「みどり香るまちづくりコンテスト」入賞の副賞としていただいた苗をザックリと植えた「ハーブ斜面」。養楽福祉会駐車場入口左側斜面にローズゼラニウム、苗代グミ、ラベンダーなど今も枯れずにいますが、余り手をかけず大して利用もしていませんでした。

今年当会の活動に賛同して下さる方々から、プラスアルファが楽しめる苗や種を頂いたのを機に、花壇に整えました。植えたのはローゼル、綿花、園芸種フジバカマ、ビックリグミ。この先味わったり飾ったり、色々利用できる植物です。収穫後の楽しみも多くの方と分かち合いたいです。



咲き終えたローゼルから美味しいジャムやお茶を作る予定 (8月28日撮影)



5月30日~
ガチガチの斜面を耕すために
発電機 + 電動スコップも動員



7月11日 苗移植

炎暑のバーベキュー大会！養楽荘の利用者さん達も参加



薫り高いお蕎麦
ごちそう様でした



養楽荘職員さんも
焼き鳥作りに奮闘！



養楽荘利用者さん達は
「おかわり」が止まらない！

7月23日どんぐりの森高木施設長さんの発案で、どんぐりの森&ハナモモの会合同BBQ大会を実施しました。

肉やウインナー、焼き鳥に加え〇理事が朝から喫茶室で打たれた絶品生そばもふるまわれ、お腹いっぱいいただきました。

養楽荘の利用者さん達も参加。美味しくうにたくさん食べて下さいました。

養楽荘の利用者さんたちは最近よく作業に来られ、草刈りや小石の除去、ジョーロで水やりなどを職員の方と一緒にやって下さっています。お菓子とお茶と歓談の休憩時間も一緒。ささやかな交流が続いています。



左はブルーベリー花壇の草取り、右はハナモモ鉢の移動をお願いしました。猛暑のなかお疲れ様でした。



フジバカマ短信

今年も野生種フジバカマは7月には咲きだしましたが場所によって枯れたり咲き方にムラがあったり。

でも開花の遅い園芸種もハーブ斜面に植えて順調に生育中だし…？

「旅する蝶」アサギマダラが来てくれる日を夢見てまたドキドキの秋がやってきます。



【寄稿】

郷土の森づくり秘話「もう一つのどんぐり作戦」 太田省三（自然環境ウォッチャー）

昭和40年代に高森山で行われた「どんぐり作戦」はよく知られている。だが、平成10年代に「みろく山」でもう一つのどんぐり作戦があったことを知る人は少ない。

平成12年9月、東海地域を過去最大の豪雨が襲った。「東海豪雨」である。みろく山麓では10数か所の山崩れが起きた。地元の環境団体「守る会」が山崩れ跡地の緑化にどんぐり苗を使うことを県に提案。苗木は会で育てて提供し行政の手で約1000本が植えられた。

やがて取り組みは「環境学習ネット」に発展的に引継がれた。市内の小学5年生が少年自然の家で行う二泊三日の「野外学習」の一日を同ネットが預かり、児童に植樹体験をしてもらう作戦へと継承されたのだ。植え場所が満杯となる5年間に延べ10校が参加した。児童数は906人。本数は約1000本（団体名はいずれも略称）。

それらの他、児童に危険な奥地にはI・T両小学校が育てた1000本を県に提供して植えてもらった。また、「緑のまちづくりグループ」主催の4回の植樹祭で市民延べ1000人が1000本を植えた。以上総合計およそ3000人で4000本を植えて作戦は終了。

児童はどんぐりと競って成長した。今や三十代前半、社会の第一線を担う。折々みろく山を振り仰いだとき、どんぐり作戦で郷土の森を緑化させたことを誇らしく思うだろう。



山崩れから4年後（平成16年11月）のみろく山。このあと植樹が開始、今は緑で覆われている（撮影：筆者）

【編集後記】今回寄稿して下さいました太田さんは桃源郷プロジェクトチームの一員です。自然環境に大変詳しくそして常に環境の変化（悪化）に危機感を持たれている方です。

「もう一つのどんぐり作戦」のきっかけとなった東海豪雨から今年で早24年。市内の小中学校の協力を得ての植樹体験や学校での育苗、市民団体による植樹祭など地道な緑化復元活動で森林が蘇りました。当会が目指すのは「復元」ではなく桃源郷の「創出」ですが、同じように若い世代も巻き込んだ活動をしたいと思案中です。